

「可能性に上限はない。成長を楽しめる、あなたへ」

徐 炯

Xu Jiong

1999 年：上海外国語大学日本語・国際貿易科卒業

1999 年：三井物産(上海)貿易有限公司に新卒入社、化工部門配属

2017 年：栄養・農業部に異動

2025 年：人事総務部に異動 現在に至る



Q： 三井物産に入社してみて、一番印象に残っていることは何ですか？

A：

一番印象に残っているのは、若手にも自分の考えを発信する機会を、最初からきちんと与えてくれる会社だと思ったことです。入社当時、総経理や部長、先輩社員とも気軽に率直に話せて、新人の意見もちゃんと聞いてもらえました。

また入社2年目には、日本の製造業向けに数百種類の原材料をまとめて調達するという、当時前例のなかったプロジェクトのコアメンバーに選ばれました。経験は浅かったのですが、フィージビリ

ティ・スタディ、原材料の分類・分析、パートナーとの交渉、輸入制度や免税政策の調査、物流体制の構築まで、計画から実行まで一連のプロセスに携わり、最終的に受注を勝ち取ることができました。

このビジネスはその後 15 年間続き、お客様の安定生産とサプライチェーンの改善に貢献し続けました。「若手を信じて任せ、まわりがその成長を支える」——そんな文化の中で得たこの経験は、今も私がどんな新しい仕事と向き合うときの原点になっています。

Q：これまでのキャリアの中で、「成長したな」と一番感じた瞬間はどんな時でしたか？

A：

異動のたびに、ゼロから学び直す必要がありました。でも今振り返ると、それこそが成長のリズムだったと思っています。

今まで担当業務の中で、電子材料ではグローバルに共通する技術仕様と数値が求められ、その後異動した栄養分野では地域の文化と消費者の感覚を深く理解することが必要、また人事総務では一人ひとりの考え方やキャリア志向、そして組織全体経営を理解しそのバランスを読むことが求められます。テーマが変わるたびに、ものの見方もどんどん広がっていきました。

異動は「過去の経験を失うこと」じゃなくて、「新しい知識や視点と組み合わせて、自分だけの強みをつくること」だと感じています。

Q：電子材料から栄養分野へ異動したとき、仕事のやり方をどのように変えていきましたか？

A：

最初は電子材料時代の経験をそのまま活かして、海外の優れた素材をどんどん探し出し、中国市場に紹介すればビジネスになるチャンスはあると考えていました。でも実際には、二つの分野でお客様が求める価値がまったく違うことに気づきました。

電子材料のお客様はグローバルに共通するスペックや数値を重視しますが、栄養健康分野では味・香り・商品コンセプト・生活習慣など、地域の文化や消費者の感覚をしっかり理解することが必要です。そこで、海外の成功事例をそのまま持ち込むのをやめて、「中国市場で今何が求められているか」——たとえば減糖や風味の現地化——を起点に考えるようにシフトしました。三井物産のグローバルなリソースと現地パートナーの知見を組み合わせ、現地ニーズを出発原点とし、現場に合ったソリューションを作っていくスタイルに変えました。

この経験を通じて、「グローバルな視点」とは海外のやり方を一方的に持ち込むことじゃなくて、それぞれの地域の文化・ニーズ・強みを理解して、国や組織を越えてつなぐことだと学びました。

Q：多様な事業領域を持つ三井物産で働くことで、どのようなイノベーションの視点が生まれましたか？

A：

三井物産のグローバルネットワークが異なる業界・地域にまたがっているからこそ、異なる知識体系をつなぎ合わせて、他では気づけないような機会を見つけることができます。

栄養・農業部での経験でいえば、ニュートリションでは機能性食品素材・健康食品・パーソナルケア・アニマルヘルスといった幅広い領域で、投資・OEM・輸出入トレーディングを組み合わせた事業に取り組み、対象地域も中国・アジアからアフリカへと広がりました。また、農業では、肥料や農薬、種などを跨り、三井物産のグローバルな専門性と各地域の市場理解、現地パートナーの強みを掛け合わせて新しい価値を生み出す——これが私にとってこの仕事の一番の醍醐味です。

Q：三井物産の職場環境や Well-being について、実際にどのように感じていますか？

A：

会社の変化は、事業戦略や人材育成だけでなく、社員の働き方や Well-being の面でも着実に進んでいると感じます。時差出勤・在宅勤務・時間単位休暇などの制度は、私自身の家庭生活と仕事の両立を本当に助けてくれました。生活のバランスが整うことで、仕事にも集中できて、長い目で見た学びや成長を続けることができました。

Well-being って、福利厚生を充実させることだけじゃないと思っています。社員が安心して働いて、自分らしく力を発揮できる土台を整えること——それが本質だと感じます。さまざまなバックグラウンドを持つ社員がお互いを尊重し、それぞれの強みを活かせる環境があつてこそ、グローバルな組織として新しい価値が生まれると思います。

一言でいえば、「違いを受け入れて、一人ひとりが自分らしくいられる」——そういう文化がここにはあります。

Q：業種も職種もまったく違う仕事を経験されてきた中で、ずっと変わらなかったことは何ですか？

A：

仕事の内容がどれだけ変わっても、変わらなかったことがあります。相手の話をきちんと聞いて、課題の本質を考えて、異なる専門性を持つ人を巻き込みながら解決していくこと——これが仕事の基本で、どの部署でもずっと同じでした。

営業時代に培った現場感覚や、新しい事業を形にしてきた経験は、今の人事総務の仕事にも生きています。営業の頃からチームメンバーが強みを発揮し、成長できる環境をつくることを大切にきて、今はそれが「チーム」から「社員全体」「組織全体」に広がったイメージです。

仕事内容は変わっても、新しいことに向き合う姿勢、自由に意見を言い合える雰囲気、そして一人ひとりの個性を大切にする気持ち——それは変わりません。

Q：現在の人事総務部での仕事が、社員の成長にどうつながっているか教えてください。

A：

2025年に人事総務部に異動してから、人事制度・人材育成・組織開発・Well-being・総務など、社員と組織を支える幅広い業務に携わっています。

私が考える人事総務部の役割は、事業戦略と人材戦略をつなぎながら、必要な人材の育成・配置・活躍を支援することです。三井物産は人材を大切にし、人材育成活用で、特に大切にしているのは、社員一人ひとりの強み・経験・専門性・キャリア志向をしっかりと理解して、その人に本当に合った成長の機会や学びの場につなげることです。

現地で活躍する優秀な社員が、所属する会社や地域の中だけでなく、東アジアやグローバルな舞台でも力を発揮できるよう、育成と活躍の場を広げていきたい——それを私の目標にしています。社員の活躍は会社に活気を付け、組織の成長に繋がると 생각합니다。

Q：新卒で入社して26年以上、同じ会社で働き続けてきた理由は何ですか？

A：

三井物産の一番に魅力は、一つの会社にながら、何度も新しい世界に飛び込めるだと思っています。

専門分野や地域が広がるたびに新しい知識を学んで、違う経験や価値観を持つ人たちと一緒に仕事をすることで、自分自身の視野と可能性もどんどん広がってきました。

2023年秋からは、会社の次世代リーダー育成プログラム「Executive Education Program」の一環として、北京大学光華管理学院の「中国経理人」コースに参加し、1年間にわたって中国の経営やマネジメントを体系的に学びました。自己紹介のとき、クラスメートから「新卒からずっと同じ会社で20年以上働いているの？」と驚かれたのを今でも覚えています。でも私自身には「同じ仕事を20年以上続けてきた」という感覚は全然なくて。事業・地域・役割を越えて、ずっと新しいテーマに向き合ってきたからです。

自分が会社からたくさんの学びと成長の機会をもらってきたからこそ、今後も次の世代にもその機

会をつないでいきたいと思っています。

これから未来を描くあなたへ：

新しい環境に飛び込むとき、不安になるのは当然のことです。学校や職場で身につけてきた専門スキルや知識は、大切な財産です。でも、それだけが自分の可能性じゃない——未知の分野に踏み出して、自分とは違う考え方を持つ人たちとつながる力を、ぜひ信じてほしいと思います。

キャリアは必ずしも一本の直線ではありません。新しい仕事との出会いの中で、それまでバラバラに見えていた経験がふとつながって、自分だけの強みに変わることがあります。最初から完璧を目指さなくていい。好奇心を持って、勇気を出して、まずその一歩を踏み出してみてください。

三井物産には、現地で働く社員も含め、前に進もうとする人に学びと活躍の機会を提供して、その成長をグローバルに支える仲間と環境があります。

